

大草谷津田いきものの里 自然観察会

オニヤンマと遊ぼう

石嶋基次（千葉市）

日時：2013年9月1日（日）10時30分～12時 天候：晴

参加者：大人13名 子ども5名 計18名

担当指導員：木下順次・石嶋基次

猛暑続きの天気も9月の声と共に少し下がり、まずまずの観察日和になりました。前日に下見を行い開催時間頃のトンボの飛翔状況を確認、当日も開催前に観察地点の確認とトンボの飛翔状況も再確認。いずれも元気なオニヤンマの飛翔を眺め担当者同志でニンマリ。子ども達の喜ぶ姿を描いて開催時間を待ちました。

大草谷津田の経緯とスズメバチ対策など注意事項、今日のテーマの説明をしてからトンボを採取して観察するために各自、網を持って谷津田に降りました。

管理組合により、事務所周辺から観察路の両側を谷津田の南端まで機械による草刈が行われており、賑やかでしたが観察会の始まる頃は概ね終了していました。

トンボ達への影響はあまり無いようなので予定どおりの企画で観察会を行いました。歩きながら樹林の中ではアオイトトンボを採取、イトトンボの生態を説明、谷津田に出たから早速採取をしてもらいましたが、素早いオニヤンマの動きになかなか採取できないので採取方法や飛翔地を説明、慣れると3匹も採取出来た子もいました。

採取したオニヤンマは♂♀の同定、全長測定、翅にマークを付け、調査表に記録して放してもらいました。♀のオニヤンマは採取しないで観察するだけと注意して、♀の働きを説明しましたが、偶然にも産卵する姿が目前で観られ、砂地に尾部を差込んで無数に産み付けるその姿に一同感動していました。（成果：♂6、♀1、その他15）

大草谷津田にはオニヤンマが多数飛んでいるのはなぜか？ オニヤンマの生態と生育環境を説明、産卵から羽化まで4年～5年かけてヤゴが育つ水環境と水路の自然環境が大草谷津田には残されていることを説明。実際に水路でヤゴ（幼虫）が育っているのか体験観察を行いました。冷たい染み出し水が流れる砂泥地の水路に手を入れて、泥の中を探ってみると大中小のヤゴが次々と採取出来、子ども達は大喜びでした。終齢幼虫は今年羽化して飛んでいるので来年羽化する3年～1年の幼虫たちです。（成果：3年15名、2年5名、1年2名、計22名）

この数なら来年も羽化する数は大丈夫です。採取して遊ぶのは楽しいですが、次の世代の幼虫が長く生きられる自然環境が大切なことを体験して貰い、大草谷津田が貴重な場所であることを確認して終了しました。

参加者感想

初参加でとても楽しかった。

ヤゴ捕りが楽しかった。

子どもの頃を思い出し楽しかった。



2013/09/01